エコアクション21
認証番号 0007842

環境経営レポート

R5

共栄環境開発株式会社

発行日：令和 6 年 4 月 22 日

運用期間：令和 5 年 1 月～令和 5 年 12 月

目次

環境経営方針 3
組織の概要 4
- 会 社 概 要 4
- 所　在　地 4
- 会社組織図 4
- エコアクション２１実施体制 5
- 会 社 沿 革 5

事業の概要 6
- 認証登録の対象組織、活動 6
- 関連事業所及び活動 6
- 料　　金 7
- 産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表 7
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表 8
- 産業廃棄物処分業許可　取得状況表 8
- 中間処理施設　概要 9
- 中間処理の概要 9
- その他の許可　取得状況表 10
- 保有車両の種類と台数 11

環境経営目標と評価　全体 12
環境経営目標と評価　本社 14
環境経営目標と評価　大牟田支店 16
環境経営目標と評価　熊本支店 18
環境経営目標と評価　久留米支店 20
環境経営目標と評価（化学物質の管理表） 22
環境経営目標と評価（目標設定の考え方） 23
環境経営計画の取組結果とその評価　本社 24
環境経営計画の取組結果とその評価　大牟田支店 25
環境経営計画の取組結果とその評価　熊本支店 26
環境経営計画の取組結果とその評価　久留米支店 27
当社の環境経営目標と SDG s の関わり 28
実施した取組内容、次年度の目標及び計画 29
環境負荷実績　全体 30
環境負荷実績　本社 32
環境負荷実績　大牟田支店 34
環境負荷実績　熊本支店 36
環境負荷実績　久留米支店 38
環境関連法規等の遵守状況の確認及び 40
代表者による全体評価と見直しの結果 42

環境経営方針

環 境 理 念

私達は、事業活動において、省エネルギー及びリサイクルを推進し、地域の環境保全に寄与する企業を目指します。

行 動 指 針

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減する為、二酸化炭素の排出量、エネルギーの使用量、水の使用量、廃棄物の排出量、輸送における燃料使用量の削減に努めます。

2. 特に収集運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取り組みます。

3. 受託した産業廃棄物の運搬先は、再資源化されている処分業者を優先的に選定し、リサイクル率の向上を図ります。

4. 作業機材や作業工程に、環境負荷の低減に資する工法や機材を選定し取り入れるよう努めます。

5. 省エネ、省資源に対応したグリーン製品を優先的に購入します。

6. 積極的に社会貢献活動（環境保全活動）に取り組み、地域環境保全に寄与します。

7. 事業に関連した環境に関する法規等を遵守します。

8. 環境経営方針は定期的に見直し、全社員に周知徹底、意識高揚をはかり、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。また、環境経営レポートは一般に開示します。

制定日　平成２３年４月１日　　改訂日　令和３年１０月２２日

共栄環境開発株式会社
代表取締役　久留須　智子

組織の概要

■ 会 社 概 要

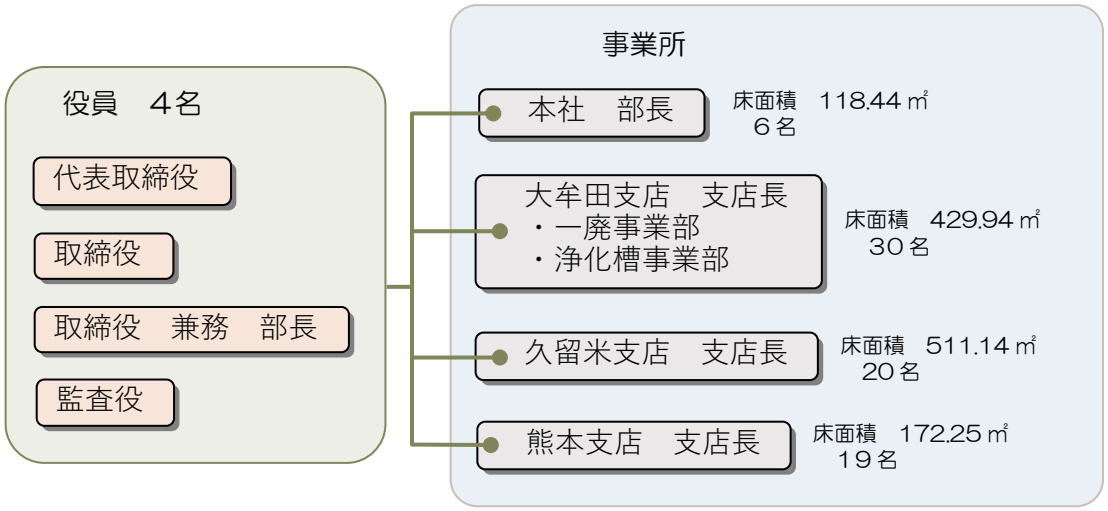
社　　号／共栄環境開発株式会社
代 表 者／代表取締役　久留須　智子
設　　立／昭和 38 年２月７日
資 本 金／払込 4,100 万円
売 上 高／1,162 百万円（令和５年度）
事業年度／1 月 1 日～12 月 31 日
ホームページ URL／https://www.kyoei-ed.com
メールアドレス／info@kyoei-ed.com

■ 所　在　地

本　　社　（〒836-0057）福岡県大牟田市汐屋町５番地の１５
TEL：0944-52-6732　/　FAX：0944-54-1525
大牟田支店　（〒836-0073）福岡県大牟田市船津町 326-2
TEL：0944-55-1231　/　FAX：0944-56-9532
久留米支店　（〒839-0806）福岡県久留米市東合川干出町 2-1
TEL：0942-45-3311　/　FAX：0942-45-3317
熊 本 支 店　（〒861-4101）熊本県熊本市南区近見８丁目 8-45
TEL：096-358-5611　/　FAX：096-358-5118

■ 会社組織図

総員　79　名　　総床面積　1231.77 ㎡



組織の概要

■　エコアクション２１実施体制

環境管理責任者：　部長　古賀　和幸　（連絡先：0944-52-6732）
実施担当者　　：　総務部　担当者　　（連絡先：　　同上　　）
EA２１委員会　：　取締役
　　監査役
　　大牟田支店　支店長
　　久留米支店　支店長
　　熊本支店　支店長
　　鉄道事業室　部長
EA21 事務局　：　総務部　担当者

■　会 社 沿 革

昭和 29 年　９月　創業
昭和 38 年　２月　共栄衛生有限会社　設立
昭和 47 年　３月　社名を共栄環境開発有限会社に変更
昭和 55 年　２月　本社ビル完成に伴い現住所に移転
昭和 57 年　９月　玉名営業所開設
昭和 58 年　７月　筑後環境分析センターを寄付
昭和 60 年　５月　資本金を 1000 万円に増資
昭和 60 年 12 月　筑後環境分析センターを寄付（(財）有明環境整備公社設立）
昭和 61 年　４月　熊本営業所開設
平成　３年　５月　社名を共栄環境開発株式会社に変更
平成　３年　７月　熊本支店を近見に新設
平成　８年　８月　久留米支店を梅満町に新設
平成 10 年 11 月　久留米支店を東合川干出町に新築移転
平成 11 年　４月　大牟田支店を船津町に新設移転
平成 20 年 11 月　資本金 2000 万円に増資
平成 24 年　２月　資本金 4100 万円に増資

事業の概要

■　認証登録の対象組織、活動

認証・登録組織名：共栄環境開発株式会社（福岡県大牟田市汐屋町５番地の１５）

認証・登録番号　：０００７８４２　　認証・登録日／2011 年 12 月 20 日

更新・登録日／2023 年 12 月 20 日

有　効　期限／2025 年 12 月 19 日

（事業内容）

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業（中間処理）、浄化槽維持管理、し尿収集運搬の委託業務、建設業（土木、管、浚渫）、伏び工事

■　関連事業所及び活動

● 本　　社

総務、経理、経営企画

● 大牟田支店

浄化槽維持管理、排水処理施設の技術管理、関連機器の修理、管工事及び排水設備工事、し尿収集運搬業務（大牟田市からの委託業務）

● 久留米支店

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修、FCR 工法による伏びの維持管理業務（鉄道事業室）

● 熊本支店

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修

● 船津車庫

業務車両の駐車場のみ

エコアクション２１の取り組み範囲は、上記の全組織・全活動を対象とします。

※ただし建設業においては、長期の建設現場をもたない業務が主であり、事務所、車両等も廃棄物処理業と共有していて、環境への負荷を分けて算出することが困難であるため、環境目標、環境活動等は全て廃棄物処理業と合わせて考えるものとし、あきらかに住み分けができる浚渫泥のみ環境負荷の記録項目に追加しています。

事業の概要

■ 料　　金

業務の内容に応じてお見積りいたします。

■ 産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表

	官庁名	許可取得（更新）年月日 許可期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・陶磁器くず・及びコンクリートくず	鉱さい	がれき類	動物のふん尿	ばいじん	石綿含有産業廃棄物を含む
優良	福岡県 04000000741	R4.2.2 R11.2.1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	熊本県 04305000741	R3.9.1 R10.8.31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	佐賀県 04101000741	R3.4.14 R10.4.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	長崎県 04200000741	R2.11.27 R9.11.26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	大分県 04407000741	R3.2.28 R10.2.27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	宮崎県 04504000741	R6.1.26 R13.1.25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	鹿児島県 04608000741	R5.10.25 R12.10.24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	山口県 03500000741	R3.6.16 R10.6.15	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	広島県 03400000741	R4.2.6 R11.2.5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	岡山県 03300000741	R4.12.14 R11.12.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※平成 24 年 4 月 1 日の廃掃法の改定により、保有していた市の許可は全て、県の許可に統合されています。

※積替え保管施設はありません。

※左に「優良」の文字を表示している箇所は、「優良産業廃棄物処理業者認定」を取得しているという意味です。これは、次ページ（８ｐ）も同様です。

事業の概要

■　特別管理産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表

	官庁名	許可取得（更新）年月日 許可期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	鉱さい	ばいじん	廃石綿等
優良	福岡県 04050000741	R3.9.21 R10.9.20	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	熊本県 04355000741	R3.5.7 R10.5.6	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	佐賀県 04151000741	H30.1.11 R7.1.10	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	長崎県 04250000741	R5.12.28 R12.12.27	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	大分県 04457000741	R5.10.26 R12.10.25	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	宮崎県 04554000741	R4.9.15 R11.9.14	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	鹿児島県 04652000741	R4.4.30 R11.4.29	●	●	●	●	●		●	●
優良	山口県 03550000741	R3.12.16 R10.12.15	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	広島県 03450000741	R4.2.6 R11.2.5	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	岡山県 03350000741	R4.12.14 R11.12.13	●	●	●	●	●	●	●	●

■　産業廃棄物処分業許可　取得状況表

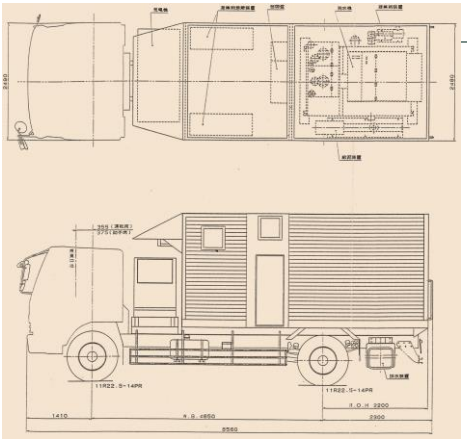
	官庁名	許可取得（更新）年月日 許可期限	汚泥（有機性）	
優良	福岡県 04020000741	R4.2.2 R11.2.1	●	
優良	久留米市 11220000741	R4.2.2 R11.2.1	●	
優良	熊本県 04325000741	R3.10.13 R10.8.31	●	移動式の汚泥脱水車を排出事業所内に搬入し、汚泥脱水中間処理を行います。 ※詳細→９Ｐ
優良	熊本市 08123000741	R6.4.13 R13.4.12	●	
優良	佐賀県 04121000741	H31.4.14 R8.4.13	●	

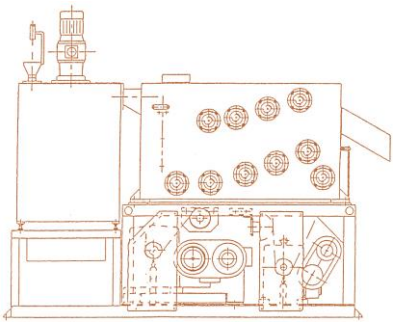
事業の概要

■　中間処理施設　概要

施 設 の 種 類：移動式汚泥脱水車
処　理　方　法：多重円盤型脱水方式（㈱ヘリオス社製脱水機　SP-1000）
処理する廃棄物：汚泥（有機性のものに限る）
処　理　能　力：最大　9㎥ ／時

※上記の処理能力は計算上の数字です、実際は汚泥の性状等によって変動します。





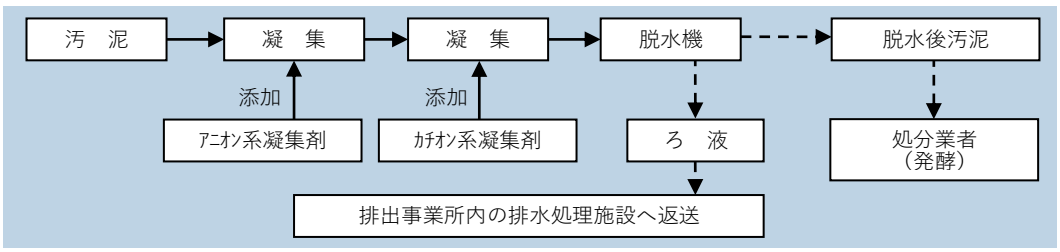
多重円盤型脱水機

※環境汚染防止対策

脱水作業により発生した排水は一度脱水車の水受けタンクに受け、排出事業所内の水処理施設に返すため、水質汚染は発生しません。施設の稼働には防音型の発電機を用い、脱水機はステンレス板で被い囲む構造としているため、振動・騒音・悪臭の発生も軽微です。

■　中間処理の概要

移動式の汚泥脱水車のため、排出事業所内へ施設を搬入し、排出事業所内の汚泥貯留槽等よりポンプで直接汚泥を脱水車に引き込み、脱水処理を行います。脱水後の汚泥は密閉型のフタ付コンテナに収納し、脱着装置付コンテナ専用車で発酵処理施設へ搬入し処分します。



■　その他の許可　取得状況表

●　一般廃棄物収集運搬

大牟田市	委託	事業範囲	し尿収集運搬
	許可	事業範囲	浄化槽汚泥、ディスポーザー排水処理汚泥
		許可番号	第２号
		許可期限	R6.4.1～R8.3.31
久留米市	許可	事業範囲	燃やせるごみ、空きカン・空きビン及びペットボトル
		許可番号	第 1020 号
		許可期限	R6.4.1～R8.3.31
川棚町	限定許可	事業範囲	し尿及び浄化槽汚泥
		許可番号	第 71 号
		許可期限	R5.5.2～R7.5.1
		限定条件	ハラサンギョウ(株)への搬入に限る。
熊本市	許可	事業範囲	ごみ（事業ごみと臨時の家庭ごみ）
		許可番号	第 21R-171 号
		許可期限	R5.4.1～R7.3.31

●　浄化槽保守点検・清掃

大牟田市	許可	事業範囲	浄化槽清掃業務
		許可番号	第 2 号
		許可期限	R5.6.1～R6.5.31
福岡県	登録	事業範囲	浄化槽保守点検業務
		登録番号	第 426 号
		登録期限	R4.4.1～R7.3.31

●　建設工事

国交大臣	許可	事業範囲	建設業許可（土木、管、しゅんせつ）
		許可番号	（般 - 4）第 16063 号
		許可期限	R5.2.16～R10.2.15
大牟田市	指定	事業範囲	排水設備工事
		指定番号	17
		指定期限	R3.7.10～R8.7.9

■　保有車両の種類と台数

種類	台数
特殊強力吸引車	１２
強力吸引車	3
脱着装置付コンテナ専用車	6
クレーン付平ボディー車	2
塵芥車	2
ダンプ車	3
Wキャブダンプ車	1
トラック	4
超高圧洗浄車	1
高圧洗浄車	5
給水車	4
下水道管渠内調査用 TV カメラ搭載車	1
移動式汚泥脱水車	1
バキューム車（浄化槽）	6
バキューム車（一廃）	3
ホロ付トラック	1
バン（浄化槽管理用等）	１０
ワゴン車（浄化槽管理用等）	3
営業車	17
軽自動車	4
路面清掃車	2
散水車	1
原付バイク	1
合　計	９３

環境経営目標と評価　全体

■　環 境 経 営 目 標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値 R4年度実績	増減値	目標値 R5年度	増減値	目標値 R6年度	増減値	到達目標値 R7年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	598906.4	±0%	598906.4	±0%	598906.4	±0%	598906.4
▸	電気使用量の削減	kWh	95513.0	±0%	95513.0	±0%	95513.0	±0%	95513.0
▸	ガス使用量の維持	m^3	87.7	±0%	87.7	±0%	87.7	±0%	87.7
▸	燃料使用量の削減	L	215382.3	±0%	215382.3	±0%	215382.3	±0%	215382.3
②	廃棄物排出量の削減	kg	7446.4	±0%	7446.4	±0%	7446.4	±0%	7446.4
③	水使用量の削減	m^3	1208.0	±0%	1208.0	±0%	1208.0	±0%	1208.0
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	546	±0人	546	±0人	546	±0人	546
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/kWh」を使用した。

■　前年度実績

No.	項目	単位	規定値 R1年度実績	増減値	目標値 R4 年度		実績値 R4 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	618125.3	-1.0%	611944.0		598906.4	102.1%
▸	電気使用量の削減	kWh	96026.0	-1.0%	95065.7		95513.0	99.5%
▸	ガス使用量の維持	m^3	154.0	±0%	154.0		87.7	143.1%
▸	燃料使用量の削減	L	226892.8	-1.0%	224623.8		215382.3	104.1%
②	廃棄物排出量の削減	kg	8051.1	-1.0%	7970.5		7446.4	106.6%
③	水使用量の削減	m^3	760.9	-1.0%	753.3		1208.0	39.6%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施		実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	591	±0 人	591		532	90.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO_2/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価　全体

■　環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値 R4年度	増減値	目標値 R5年度		実績値 R5年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	598906.4	±0%	598906.4		580913.9	103.0%
▸	電気使用量の削減	kWh	95513.0	±0%	95513.0		87278.0	108.6%
▸	ガス使用量の維持	m^3	87.7	±0%	87.7		192.0	-18.9%
▸	燃料使用量の削減	L	215382.28	±0%	215382.3		209685.5	102.6%
②	廃棄物排出量の削減	kg	7446.44	±0%	7446.4		8145.7	90.6%
③	水使用量の削減	m^3	1208.0	±0%	1208.0		1371.3	86.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施		実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	546	±0 人	546		517	94.7%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準　▸達成率 100%以上=○　▸達成率 100%未満 70%以上=△　▸達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	排出源の項目別にみると、電気使用量の削減と燃料使用量の削減、二つの項目で目標を達成する事ができた。排出量の割合が大きい燃料使用量の削減項目で目標を達成できたことが、目標達成に大きく貢献している。削減活動を継続していく中で、年々削減していくことが難しくなっているが、その中でも目標を達成することができた。
▸	電気使用量の削減	○	継続して実施している節電活動の効果が出ている。電力使用量が極端に減少していたのは久留米支店。明確な理由は判明しなかったが、おそらく、業務多忙により、営業社員や現場社員が室内にいる時間が少なかった為だと分析している。
▸	ガス使用量の維持	×	ガスの使用量が増加する主な要因は、シャワーの使用によるもの。衛生を保つことも重要であり、削減を強要できるものではない。シャワーの使用は本人の判断に任せており、福利厚生の一環でもあるため、会社として、使用頻度について言及はしない。ただ、そもそも使用量自体がそんなに多くはないため、全体の二酸化炭素排出量に与える影響は小さい。
▸	燃料使用量の削減	○	当社の業務では、燃料使用量と業務量は比例する関係にある。売り上げが減少して、燃料使用量が減少するのは望ましくない。しかし、今年度に関しては、前年度より売上高が増加したにも関わらず、燃料使用量が減少していた。非常に良い結果だが、今年度は外注へ委託した業務が多かった。それが燃料使用量の減少に影響していると考えられる。
②	廃棄物排出量の削減	△	熊本支店と久留米支店の排出量増加は、単純に人数が増えたため。本社と大牟田支店は、コンビニで昼食を買う人の比率の変化や、備品廃棄を行ったことが要因とみている。
③	水使用量の削減	△	大牟田支店と久留米支店の使用量増加が影響し、目標を達成する事ができなかった。ただ、その原因ははっきりしており、対策を講じられるものについては対策を講じた。業務上、必須になるものについては、削減することはできないが、それ以外のところで削減できないか模索し、活動を継続していく。
④	グリーン購入の推進	○	優先的にグリーン製品の購入を実施している。
⑤	グリーン活動への参加	△	近隣でのゴミ拾い清掃活動は欠かすことなく実施されているが、業務との兼ね合いで参加人数が少なくなることがある。しかし、当社の業務自体が環境保全活動に直結しており、業務を行うこともグリーン活動の一環となっている。実際に河川や側溝清掃でゴミを持ち帰り、処分することもある。また、今年度も、地域で開催されたゴミ拾い環境イベントに数名が参加してくれた。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	○	環境活動計画に準じて実施されている。

環境経営目標と評価　本社

■　環 境 経 営 目 標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値 R4年度実績	増減値	目標値 R5年度	増減値	目標値 R6年度	増減値	到達目標値 R7年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	19138.9	±0%	19138.9	±0%	19138.9	±0%	19138.9
▸	電気使用量の削減	kWh	29542.0	±0%	29542.0	±0%	29542.0	±0%	29542.0
▸	ガス使用量の維持	m^3	7.00	±0%	42.00	±0%	42.00	±0%	42.00
▸	燃料使用量の削減	L	2472.5	±0%	2472.5	±0%	2472.5	±0%	2472.5
②	廃棄物排出量の削減	kg	815.5	±0%	815.5	±0%	815.5	±0%	815.5
③	水使用量の削減	m^3	42.0	±0%	42.0	±0%	42.0	±0%	42.0
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	51	±0人	51	±0人	51	±0人	51
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/kWh」を使用した。

■　前年度実績

No.	項目	単位	規定値 R1年度	増減値	目標値 R4 年度		実績値 R4年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	21784.3	-1.5%	21457.6		16007.4	125.4%
▸	電気使用量の削減	kWh	35019.0	-1.5%	34493.7		29542.0	114.4%
▸	ガス使用量の維持	m^3	1.0	±0%	1.0		7.0	-500.0%
▸	燃料使用量の削減	L	4148.1	-1.5%	4085.9		2472.5	139.5%
②	廃棄物排出量の削減	kg	968.8	-1.5%	954.3		815.5	114.5%
③	水使用量の削減	m^3	20.9	—	52.5		42.0	120.0%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施		活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	55	±0 人	55		51	92.7%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO_2/ kWh」を使用した。

環境経営目標と評価　本社

■　環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値 R4年度	増減値	目標値 R5 年度		実績値 R5 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	19138.9	±0%	19138.9		18346.9	104.1%
▸	電気使用量の削減	kWh	29542.0	±0%	29542.0		27164.0	108.0%
▸	ガス使用量の維持	m^3	7.0	±0%	42.0		24.0	142.9%
▸	燃料使用量の削減	L	2472.5	±0%	2472.5		2580.0	95.7%
②	廃棄物排出量の削減	kg	815.5	±0%	815.5		868.1	93.5%
③	水使用量の削減	m^3	42.0	±0%	42.0		43.3	97.0%
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施		活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	51	±0 人	51		48	94.1%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/ kWh」を使用した。

※達成状況評価基準　‣達成率 100%以上=○　‣達成率 100%未満 70%以上=△　‣達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	燃料使用量の削減目標は達成できていなかったが、電気使用量とガス使用量は、余裕のある数値で目標を達成できている。結果、総合的に排出量の目標値を達成することができた。達成率が 104.1%と、非常に素晴らしい結果になっている。
▸	電気使用量の削減	○	継続して実施している節電活動の効果もあり、目標を達成する事ができた。しかし、達成率が 108%と高い数値になっているのは、前年度に電気温水器をガス湯沸かし器に変更したことも影響している。電気使用量がガス使用量に転換されただけとも考えられる。
▸	ガス使用量の維持	○	令和 4 年 11 月から新たにガス湯沸かし器の使用を開始した為、目標値を概算で設定していた。しかし、実際の使用量が想定より大幅に少なかったため、結果的に達成率が異常に高くなっている。令和 6 年度の目標は、令和 5 年度の実績値を元に目標値を修正する。
▸	燃料使用量の削減	△	新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行による規制の緩和で、対面でのやり取りが増えてきている。そのため、社外に出る機会も徐々に増えてきており、車の使用頻度が増え、燃料使用量が増加している。
②	廃棄物排出量の削減	△	目標を達成できなかった。来年度も活動を継続し、次年度には目標の達成をしたい。
③	水使用量の削減	△	本社の水道使用量は、自社ビル全体の水使用量から、当社が検針した賃貸部分の使用量を差し引いて算出しているが、全体と賃貸部分でそれぞれ検針期間にずれがある。このため、実際は本社のみの水使用量を正確に把握することが難しい。異常な増加がなければ問題はないと捉える。
④	グリーン購入の推進	○	事務用品を購入する際には、優先してグリーン製品を購入している。
⑤	グリーン活動への参加	△	会社近隣のゴミ拾い清掃活動は欠かすことなく実施している。そのうえで目標に届かなかったことを考慮し、次年度には目標値の再設定を検討する。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	該当しない部署

環境経営目標と評価　大牟田支店

■　環 境 経 営 目 標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値 R4年度実績	増減値	目標値 R5年度	増減値	目標値 R6年度	増減値	到達目標値 R7年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	136413.1	±0%	136413.1	±0%	136413.1	±0%	136413.1
▸	電気使用量の削減	kWh	23898.0	±0%	23898.0	±0%	23898.0	±0%	23898.0
▸	ガス使用量の維持	m^3	0.0	±0%	0.0	±0%	0.0	±0%	0.0
▸	燃料使用量の削減	L	49102.3	±0%	49102.3	±0%	49102.3	±0%	49102.3
②	廃棄物排出量の削減	kg	5571.2	±0%	5571.2	±0%	5571.2	±0%	5571.2
③	水使用量の削減	m^3	267.0	±0%	267.0	±0%	267.0	±0%	267.0
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	336	±0人	336	±0人	336	±0人	336
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/kWh」を使用した。

■　前年度実績

No.	項目	単位	規定値 R1年度	増減値	目標値 R4 年度	実績値 R4 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	128017.3	-1.5%	126097.0	133879.9	93.8%
▸	電気使用量の削減	kWh	22870.0	-1.5%	22527.0	23898.0	93.9%
▸	ガス使用量の維持	m^3	0.0	±0%	0.0	0.0	—
▸	燃料使用量の削減	L	47082.8	-1.5%	46376.6	49102.3	94.1%
②	廃棄物排出量の削減	kg	5659.0	-1.5%	5574.2	5571.2	100.1%
③	水使用量の削減	m^3	205.0	-1.5%	201.9	267.0	67.8%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	360	±0 人	360	336	93.3%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO_2/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価　大牟田支店

■　環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値 R4年度	増減値	目標値 R5 年度		実績値 R5 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	136413.1	±0%	136413.1		132605.6	102.8%
▸	電気使用量の削減	kWh	23898.0	±0%	23898.0		21388.0	110.5%
▸	ガス使用量の維持	m^3	0.0	±0%	0.0		0.0	—
▸	燃料使用量の削減	L	49102.3	±0%	49102.3		48012.2	102.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	5571.2	±0%	5571.2		6208.4	88.6%
③	水使用量の削減	m^3	267.0	±0%	267.0		328.0	77.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施		活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	336	±0 人	336		310	92.3%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施		実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/ kWh」を使用した。

※達成状況評価基準　‣達成率 100%以上=○　‣達成率 100%未満 70%以上=△　‣達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	達成率で見ると102.8%と、少し余裕のある状態で達成している。構成している項目を個別に見ても、電気使用量の削減、燃料使用量の削減、共に目標を達成できている。削減活動を継続することで次年度も目標を達成し、継続して目標を達成できるようにしたい。
▸	電気使用量の削減	○	昨年と比較すると、7月から9月(夏季)の使用量が大きく減少している。前年度の8月に空調機を買い替えた為、空調機の省エネ性能が向上し、電気使用量が減少していると考えられる。
▸	ガス使用量の維持	○	年間を通してガスの使用は無かった。
▸	燃料使用量の削減	○	当社の業務は車両が主であるため、基本的に燃料使用量は業務量に比例する傾向にある。今年度の売上高は前年度より少なく、業務量が少なかった為に、燃料の使用量が減少していると考えられる。
②	廃棄物排出量の削減	△	削減活動は継続して実施されている。ただ、不要品の整理等でまとまった量の廃棄が多かった事で、年間排出量が増加している。問題はないと考える。
③	水使用量の削減	△	使用量が大きく増加している原因は漏水によるもの。1月の大寒波の時に、電気温水器の配管が凍結により破裂し、漏水が発生している。また、7月には、洗濯機の給水ホースが破裂し、漏水が発生している。洗濯機の漏水については、今後、未使用時に水道の元栓を閉めるルールを設け、再発防止策を講じた。
④	グリーン購入の推進	○	優先してグリーン製品の購入を実施している。
⑤	グリーン活動への参加	△	会社近隣でのゴミ拾い清掃活動は欠かす事なく実施されているが、業務との兼ね合いもあり、参加人数が少なくなることがある。原則、業務優先だが、声掛けは継続する。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。

環境経営目標と評価　熊本支店

■　環 境 経 営 目 標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値 R4年度実績	増減値	目標値 R5年度	増減値	目標値 R6年度	増減値	到達目標値 R7年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	179595.0	±0%	179595.0	±0%	179595.0	±0%	179595.0
▸	電気使用量の削減	kWh	19667.0	±0%	19667.0	±0%	19667.0	±0%	19667.0
▸	ガス使用量の維持	m^3	52.7	±0%	52.7	±0%	52.7	±0%	52.7
▸	燃料使用量の削減	L	65848.5	±0%	65848.5	±0%	65848.5	±0%	65848.5
②	廃棄物排出量の削減	kg	426.6	±0%	426.6	±0%	426.6	±0%	426.6
③	水使用量の削減	m^3	505.0	±0%	505.0	±0%	505.0	±0%	505.0
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0人	66	±0人	66	±0人	66
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/kWh」を使用した。

■　前年度実績

No.	項目	単位	規定値 R1年度	増減値	目標値 R4 年度		実績値 R4 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	180983.4	-1.5%	178268.6		177510.3	100.4%
▸	電気使用量の削減	kWh	17553.0	-1.5%	17289.7		19667.0	86.3%
▸	ガス使用量の維持	m^3	149.8	±0%	149.8		52.7	164.8%
▸	燃料使用量の削減	L	67375.9	-1.5%	66365.3		65848.5	100.8%
②	廃棄物排出量の削減	kg	873.06	-1.5%	860.0		426.6	150.4%
③	水使用量の削減	m^3	359.0	-1.5%	353.6		505.0	57.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施		活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0 人	66		66	100.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO_2/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価　熊本支店

■　環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値 R4年度	増減値	目標値 R5 年度		実績値 R5 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	179595.0	±0%	179595.0		179896.4	99.8%
▸	電気使用量の削減	kWh	19667.0	±0%	19667.0		19721.0	99.7%
▸	ガス使用量の維持	m^3	52.7	±0%	52.7		133.4	-53.1%
▸	燃料使用量の削減	L	65848.5	±0%	65848.5		65858.3	100.0%
②	廃棄物排出量の削減	kg	426.6	±0%	426.6		432.5	98.6%
③	水使用量の削減	m^3	505.0	±0%	505.0		527.0	95.6%
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施		活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0 人	66		67	101.5%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/ kWh」を使用した。

※達成状況評価基準　‣達成率 100%以上=○　‣達成率 100%未満 70%以上=△　‣達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	△	達成率では、99.8%と目標の達成まであと僅かというところだった。排出源の項目別では、電気使用量とガス使用量が目標を達成できていない。ただ、電気使用量では、達成率が 99.7%と、目標達成まであと僅かというところだった。
▸	電気使用量の削減	△	達成率でみると目標達成まであと僅かというところだった。使用量が大きく増加しているということもなく、削減活動は継続して実施されているので問題はないと考える。
▸	ガス使用量の維持	×	ガスの使用量が増加する主な原因は、シャワーの使用によるもの。シャワーの使用については、福利厚生の一環として、現場作業で汚れてしまった時に、個人の判断で使用する。そのため、会社から削減を指示できるものではない。ただ、使用量が多いわけではない為、全体の二酸化炭素排出量に与える影響は小さい。なお、シャワーの使用頻度が増加したのは、社員数が増加したことも影響している。
▸	燃料使用量の削減	○	前年度との比較では、使用量が減少していた。しかし、売上高は前年度より多くなっている。その中で燃料使用量が減少しているのは、外注委託が多かったことが要因になっている。ただ、エコドライブなどの活動も継続しているため、その効果も少なからず結果に貢献していると考える。
②	廃棄物排出量の削減	△	達成率で見れば 98.6%と、目標の達成まであと僅かというところだった。備品の整理を実施すると排出量が多くなることもあり、年度よって波がある為、継続して削減していくことが難しいと感じる。社員数の増加も多少の影響があるだろう。
③	水使用量の削減	△	月別の使用量を見ると、毎月、ある程度の量を継続して使用しており、それが積み重なって、年間使用量が多くなっている。ただ、極端に使用量が増減している月はなかった。社員数の増加による影響ではないかと考える。(作業服の洗濯やシャワーの使用回数の増加。)
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入されている。
⑤	グリーン活動への参加	○	継続して取り組まれていた。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。

環境経営目標と評価　久留米支店

■　環 境 経 営 目 標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値 R4年度実績	増減値	目標値 R5年度	増減値	目標値 R6年度	増減値	到達目標値 R7年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	263759.5	±0%	263759.5	±0%	263759.5	±0%	263759.5
▶	電気使用量の削減	kWh	22406.0	±0%	22406.0	±0%	22406.0	±0%	22406.0
▶	ガス使用量の維持	m^3	28.0	±0%	28.0	±0%	28.0	±0%	28.0
▶	燃料使用量の削減	L	97959.0	±0%	97959.0	±0%	97959.0	±0%	97959.0
②	廃棄物排出量の削減	kg	633.2	±0%	633.2	±0%	633.2	±0%	633.2
③	水使用量の削減	m^3	394.0	±0%	394.0	±0%	394.0	±0%	394.0
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	93	±0人	93	±0人	93	±0人	93
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/kWh」を使用した。

■　前年度実績

No.	項目	単位	規定値 R1年度	増減値	目標値 R4 年度		実績値 R4 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	287340.3	-1.5%	283030.2		261384.4	107.6%
▶	電気使用量の削減	kWh	20584.0	-1.5%	20275.2		22406.0	89.5%
▶	ガス使用量の維持	m^3	3.2	—	32.8		28.0	114.6%
▶	燃料使用量の削減	L	108286.0	-1.5%	106661.7		97959.0	108.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	550.1	-1.5%	541.9		633.2	83.2%
③	水使用量の削減	m^3	176.0	—	461.0		394.0	114.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施		活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	110	±0 人	110		93	84.5%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO_2/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価　久留米支店

■　環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値 R4年度	増減値	目標値 R5 年度		実績値 R5 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	263759.5	±0%	263759.5		250061.9	105.2%
▸	電気使用量の削減	kWh	22406.0	±0%	22406.0		19005.0	115.2%
▸	ガス使用量の維持	m^3	28	±0%	28.0		34.6	76.4%
▸	燃料使用量の削減	L	97959.0	±0%	97959.0		93235.1	104.8%
②	廃棄物排出量の削減	kg	633.2	±0%	633.2		636.6	99.5%
③	水使用量の削減	m^3	394.0	±0%	394.0		473.0	79.9%
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施		活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	93	±0 人	93		92	98.9%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署		該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO_2/ kWh」を使用した。

※達成状況評価基準　‣達成率 100%以上=○　‣達成率 100%未満 70%以上=△　‣達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	排出源別にみると、ガス使用量の維持では、目標値を達成することができなかったが、電気使用量の削減と、燃料使用量の削減項目で目標を達成する事ができた。二酸化炭素排出量の多い燃料使用量が削減されていることが、目標達成に貢献している。
▸	電気使用量の削減	○	令和 4 年 11 月に事務所 2F の照明を LED に変更している。しかし、減少していたのは電力使用量だった。はっきりとした要因は分からないが、業務多忙のために営業社員や現場社員が事務所内にいる時間が少なかったためだと考えられる。
▸	ガス使用量の維持	△	ガス使用量の増減は、シャワーの使用頻度に大きく影響を受ける。シャワーの使用頻度は、現場の状況によって変わり、年度によっても状況が違うため、ある程度の変動は許容範囲と考える。
▸	燃料使用量の削減	○	燃料使用量は、基本的に業務量に比例する。今年度は前年度よりも売上高が多かった為、当然、業務量も多かった。それでも目標を達成できているのは、外注へ委託した業務が多かった為。また、運搬業務と現場作業の割合も影響する。(走行による燃料使用量と、架装搭載装置の稼働による燃料使用量の違い。)
②	廃棄物排出量の削減	△	備品整理による不要品の廃棄もある為、年度によって変動も大きい。無駄な廃棄物の排出は無いはずだが、声掛けを継続し、次年度は目標の達成を目指す。
③	水使用量の削減	△	3 月と 4 月の使用量が多く、その影響で目標を達成する事ができなかった。原因は、管内洗浄(特殊シャーベットで配管内を洗浄する工法)の製氷機を一時的に久留米支店に設置しており、久留米支店の上水でシャーベットを生成していた為。業務に必要な使用である。5 月以降の使用量は安定していた。
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入をしている。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標達成まであと 1 人という結果であり、問題はないと考える。忙しい中でもきちんと取り組まれている。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。

環境経営目標と評価（化学物質の管理表）

■　補足　化学物質の管理表

	年度	種別	化学物質の種類または薬品名	単位	年間購入量
化学物質購入量	R5年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
				kg	
				kg	
		購入した化学薬品（参考）	(Y-ST-1)ストール1号　10L×1【尿石除去剤】	kg	10.0
			アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	290.0
			ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	0.0
			次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	60.0
			東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
			水処理剤　XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
			水処理剤　XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,860.0
			水処理剤　XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	75.0
			グリスノン【グリス除去剤】	kg	40.0
	R4年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
				kg	
				kg	
		購入した化学薬品（参考）	(Y-ST-1)ストール1号　10L×1【尿石除去剤】	kg	30.0
			アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	350.0
			ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	0.0
			次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	100.0
			東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
			水処理剤　XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	975.0
			水処理剤　XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,875.0
			水処理剤　XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
			グリスノン【グリス除去剤】	kg	0.0
	R3年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
				kg	
				kg	
		購入した化学薬品（参考）	(Y-ST-1)ストール1号　10L×1【尿石除去剤】	kg	10.0
			アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	430.0
			ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	12.0
			ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	12.0
			ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	12.0
			次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	40.0
			東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
			水処理剤　XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
			水処理剤　XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	2,025.0
			水処理剤　XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
			グリスノン【グリス除去剤】	kg	40.0

環境経営目標と評価（目標設定の考え方）

■　補足　環境経営目標の設定に関する考え方

下記の考え方を取りまとめ、これに従って環境目標を設定した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	削減活動を継続する中で、今以上の削減が難しくなってきている。R5 年度～R7 年度の 3 ヵ年計画で、R4 年度時点の実績値の維持を目標とする。目標は維持にしているが、削減活動は積極的に実施する。最低限、達成したい目標が、R4 年度と同等の数値という事。ただし、燃料使用量が業績向上に伴って増加している場合には、二酸化炭素排出量にも大きく影響する。その場合は、電気使用量が削減できていれば評価に値すると考える。
▸	電気使用量の削減	kWh	削減活動を続けていく中で、今以上の削減が難しくなってきている。R5 年度～R7 年度の 3 ヵ年計画で、R4 年度時点の実績値の維持を目指す。削減の対策として、遮熱フィルムの貼付け、エアコンの取替え、蛍光灯の LED 化なども合わせて検討する。
▸	ガス使用量の維持	m^3	削減するというほど使用しているものでも無い上、用途（稀にお茶を煮出す、従業員用のシャワー利用）として、意図的に削減できるものでもない。毎年、同量を維持することを目標とする。本社では R4 年度の 11 月に電気給湯器をガス給湯器に変更している。R4 年度の実績が 11 月と 12 月の 2 ヶ月しかない為、その 2 ヶ月の平均値が 1 年間続いたと仮定して目標値を設定した。
▸	燃料使用量の削減	L	R5 年度～R7 年度の 3 ヵ年計画で、R4 年度時点の実績値の維持を目指す。主にエコドライブの実施。低燃費車の導入や、過積載防止という取り組みも燃料使用量の削減に影響するが、それについては以下の項目⑦及び⑧の目標として取り組む。ただし、業務の増減によって左右されるため、実績評価にあたっては、その年の業績と比べて評価しなければならない。業績が向上した年は、燃料使用量が増えて当然である。また、エンジンを利用して機械を稼働させる吸引車が殆どであり、走行距離と給油量から燃費を計算できるものではないため、燃費による評価は採用しない。
②	廃棄物排出量の削減	kg	削減活動を継続する中で、今以上の削減が難しくなってきている。R5 年度～R7 年度の 3 ヵ年計画で、R4 年度時点の実績値の維持を目指す。
③	水使用量の削減	m^3	活動を続けていく中で、今以上の削減が難しくなっている。R5 年度～R7 年度の 3 ヵ年は、R4 年度時点の実績値の維持を目標とする。
④	グリーン購入の推進	品目数	数値目標は設定せず、優先的に購入する事を推進する。現場資材については品質、性能を優先するため、こちらから指示することはできない。基本的に、事務用品及び福利厚生品を対象として取り組む。
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	R4 年度時点で大部分の従業員が活動に参加している。今以上に参加人数を増やす事は難しい為、現状の維持を目指す。
⑥	化学物質の適正管理	―	適正管理の実施を目標とする。適正管理の意味するところは、「①購入量を記録する」「②化学薬品を購入した場合は SDS を取得する」「③購入量と SDS 情報から、PRTR 法に該当する有害物質の量を記録する」ということ。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	―	収集運搬においては、過積載の防止を目標とし、毎年5月と11月を過積載防止月間と設定して取り組みの状況を確認する。 処分（中間処理）においては、脱水後の汚泥を再資源化（堆肥化、発酵）の処分場へ搬入することを目標とする。この結果については、「環境への負荷の状況」に記載する量で確認できる。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	―	建設業と言っても、建築、解体、大規模な工事等を行っているわけではない。施工時に環境への配慮として実施すべき項目を設定し、それが取り組まれているかどうかで評価する。

環境経営計画の取組結果とその評価　本社

本　　社

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▸電気使用量の削減	1	昼休み中は消灯する。	○	確実に実施されています。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	実施できています。消灯する意識が根づいています。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	特に寒い日には、推奨温度より高くなっている日もありましたが、無理のない範囲で調整されていました。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月の大掃除の日に実施しました。
	▸ガス使用量の維持	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	閉め忘れもなく意識して実施されていました。
	▸燃料使用量の削減	1	エコドライブを実施する。	○	車を運転する時には、全員が意識して実施できています。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	乗車する際に確認するルールを作り、取り組んでいます。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前にルートを確認し、最短距離を走行できるようにしています。
②	廃棄物排出量の削減	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	出す前に計測し、忘れも無く記録できています。
		2	分別を徹底する。	○	出来ています。自治体の分別方法に沿って取り組めています。
③	水使用量の削減	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	全員が意識して取り組むことができていました。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	確実に実施することが出来ています。
④	グリーン購入の推進 （優先的に購入）	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先的に購入出来ています。
⑤	グリーン活動への参加 ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	48	計画的に欠かすことなく実施できています。
		2	行政、団体主催の環境イベント（ゴミ拾いや環境啓蒙など）に参加する。	—	—
⑥	化学物質の適正管理 （適正管理を確実に実施）	1	購入した薬品のSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	（収集運搬）過積載を防止する。	—	該当しない部署
		2	（処分）脱水後汚泥は、基本的に再資源化（堆肥化、発酵）を行う処分場に処分を委託する。	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	—	該当しない部署
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	—	該当しない部署
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	—	該当しない部署

環境経営計画の取組結果とその評価　大牟田支店

大牟田支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▸電気使用量の削減	1	昼休み中は消灯する。	○	習慣として出来ています。継続して下さい。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	習慣化されています。今後も継続をお願いします。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	出来ています。設定温度を適切に調整出来ています。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	11月と12月に実施しました。
	▸ガス使用量の維持	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	確実に実施されています。継続して下さい。
	▸燃料使用量の削減	1	エコドライブを実施する。	○	意識してエコドライブを実施出来ています。今後も継続して下さい。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	始業前の実施が習慣化されています。継続して下さい。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に最短距離になるよう計画出来ています。
②	廃棄物排出量の削減	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	実施出来ています。今後も確実にお願いします。
		2	分別を徹底する。	○	出来ています。継続して下さい。
③	水使用量の削減	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	実施出来ています。意識して節水出来ています。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	忘れもなく確認出来ています。今後も継続して下さい。
④	グリーン購入の推進 （優先的に購入）	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	実施出来ています。今後も継続して下さい。
⑤	グリーン活動への参加 ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	308	実施出来ています。参加人数を増やせるよう出来る限りの業務調整をお願いします。
		2	行政、団体主催の環境イベント（ゴミ拾いや環境啓蒙など）に参加する。	○	町内で開催された清掃イベントに参加した社員がいました。
⑥	化学物質の適正管理 （適正管理を確実に実施）	1	購入した薬品のSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	○	出来ています。継続して下さい。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	（収集運搬）過積載を防止する。	○	確実に実施されています。今後も徹底してください。
		2	（処分）脱水後汚泥は、基本的に再資源化（堆肥化、発酵）を行う処分場に処分を委託する。	○	全量、再資源化を行う処分場に委託しています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	実施出来ています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	養生等の対策をして実施出来ています。継続して下さい。

熊本支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▸電気使用量の削減	1	昼休み中は消灯する。	○	実施されています。消し忘れもありませんでした。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	必ず実施されています。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	適正な設定温度に調整されています。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	10月と12月に清掃を実施しました。
	▸ガス使用量の維持	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	確実に実施されています。
	▸燃料使用量の削減	1	エコドライブを実施する。	△	実施できていますが、寒い日に暖気運転をしていたことがありました。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	始業前に規定量になっている事を確認しています。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	積極的に情報共有を行い、最短距離を走行できるよう計画できています。
②	廃棄物排出量の削減	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	欠かさず記録しています。
		2	分別を徹底する。	○	プラスチックもきちんと分別できています。
③	水使用量の削減	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	節水の徹底を意識して実施できていました。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	実施しています。使用料の異常な増加はありませんでした。
④	グリーン購入の推進 （優先的に購入）	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先して購入しています。
⑤	グリーン活動への参加 ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	67	実施されています。業務の忙しい中でもやり繰りできていました。
		2	行政、団体主催の環境イベント（ゴミ拾いや環境啓蒙など）に参加する。	—	—
⑥	化学物質の適正管理 （適正管理を確実に実施）	1	購入した薬品のSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	（収集運搬）過積載を防止する。	○	比重を計算する事で過積載の防止に努めています。
		2	（処分）脱水後汚泥は、基本的に再資源化（堆肥化、発酵）を行う処分場に処分を委託する。	○	実施できている。必ず再資源化を行う処分場に委託しています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	適切な回転数で稼働しています。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	施工場所の状況に応じて作業計画をたて、最短で終わるよう計画する事ができました。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	作業前に対策を行い、油漏れや泥の飛散を防止し作業できています。

環境経営計画の取組結果とその評価　久留米支店

久留米支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▸電気使用量の削減	1	昼休み中は消灯する。	○	実施されています。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	△	10月に消し忘れがありました。必ず実施できるよう意識してください。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	12月の寒さが厳しい日には、設定温度が高めに設定されている日がありました。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月に清掃を実施しました。
	▸ガス使用量の維持	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	確実に実施されています。
	▸燃料使用量の削減	1	エコドライブを実施する。	△	エコドライブの意識が少し薄れていると感じる場面がありました。今一度、エコドライブの内容を復習するようにします。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	△	たまに確認できていない事がありました。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に運行ルートを確認して実施できています。
②	廃棄物排出量の削減	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	実施されています。欠かさず記録できています。
		2	分別を徹底する。	△	分別しきれずに少量混ざっている事があります。
③	水使用量の削減	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	△	意識して節水への取り組みが実施されていました。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	実施しています。漏水等の発生は確認されていません。
④	グリーン購入の推進 （優先的に購入）	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先して購入できています。
⑤	グリーン活動への参加 ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	92	業務の忙しい中でも時間を作り実施されています。
		2	行政、団体主催の環境イベント（ゴミ拾いや環境啓蒙など）に参加する。	○	10月に近隣地域で開催された清掃活動に参加しました。
⑥	化学物質の適正管理 （適正管理を確実に実施）	1	購入した薬品のSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	（収集運搬）過積載を防止する。	○	実施されています。
		2	（処分）脱水後汚泥は、基本的に再資源化（堆肥化、発酵）を行う処分場に処分を委託する。	○	必ず再資源化を行う処分場に委託しています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	適切な回転数を意識して実施できています。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	作業前にミーティングを実施し、最短工事になるように計画をしています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	作業前に周辺を確認し、汚染する可能性がある場所には対策を行っています。

当社の環境経営目標とSDGｓの関わり

・SDGsに関係する当社の環境経営目標一覧表

No.	項目	実施内容	関係するSDGs17の目標のアイコン
①	二酸化炭素排出量の削減		
▸	電気使用量の削減	昼休み中は消灯する。	
		人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	
		エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	
		エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	
▸	ガス使用量の維持	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	
▸	燃料使用量の削減	エコドライブを実施する。	
		始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	
		運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	
②	廃棄物排出量の削減	ゴミの排出重量をかならず記録する。	
		分別を徹底する。	
③	水使用量の削減	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	
		水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	
④	グリーン購入の推進	製品購入にあたっては、可能な限りグリーン製品を購入する。	
⑤	グリーン活動への参加	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	
		行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	
⑥	化学物質の適正管理	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	(収集運搬)過積載を防止する。	
		(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	
		最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	
		周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	

実施した取組内容、次年度の目標及び計画

■　環境経営計画に基づき実施した取組内容（一部）

- 営業車は、基本的にプリウスやアクアなどのハイブリッド車か低燃費車を購入している。
- 社内のプリンタ複合機は、省電力（スリープ）モード付きで、人感センサーで起動するタイプのものを購入している。（富士ゼロックス製）
- 営業所の室内灯は全て LED 蛍光灯を使用している。
- 夏はクールビズ、冬はウォームビズを推奨している。
- 作業員の制服は、夏服も冬服もグリーン製品を使用している。
- 室温管理のために、室温計を設置している。
- 重要書類の処分は、クロネコヤマトの「機密文書リサイクルサービス（溶解処分）」を利用している。
- 重要度の低い社内書類の印刷には裏紙を使用している。

■　次年度の環境経営目標及び環境経営計画

令和 4 年度の実績値を規定値として、その使用量の維持を目標に令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 ヵ年で環境経営目標及び環境経営計画を作成していた。前回の審査後に、「前向きな目標設定もできるのではないか。」と助言を受けたので、次年度に環境経営目標及び環境経営計画の変更を検討する。

環境負荷実績　全体

全　体

1．事業の規模

環境への負荷	単位	R3年	R4年	R5年	前年度比
売上高	千円	1,189,107	1,117,555	1,162,285	104.0%
従業員	人	74	74	79	106.8%
床面積	㎡	1231.77	1231.77	1231.77	100.0%

2．環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷			単位	R3年	R4年	R5年	前年度比	重要性 目標項目	重要性 取組項目	重要性 監視項目
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		kg-CO_2	640457.1	598906.4	580913.9	97%	○		
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量		t	3104.5	2890.2	2739.7	95%			○
	特別管理産業廃棄物収集運搬量		t	5.5	15.2	7.6	50%			○
	産業廃棄物中間処理量		t	1326.9	580.0	540.1	93%			○
	▶ うち再資源化等量		t	1326.9	580.0	540.1	93%			○
	中間処理後の産廃の処分量		t	192.4	97.3	78.7	81%			○
	▶ うち再資源化等量		t	192.4	97.3	78.7	81%	○		
	浄化槽汚泥（一廃）の収集運搬量		t	8940.5	8420.8	8368.0	99%			○
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	1946.8	1867.8	1798.5	96%			○
		単純焼却	kg	1563.9	1006.9	1069.1	106%			○
		最終処分	kg	12.5	21.8	8.0	37%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	4550.0	4550.0	5270.0	116%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		廃棄物排出量合計	kg	8073.2	7446.4	8145.7	109%	○		
④-1 総排水量	公共用水域		㎥	247.0	267.0	328.0	123%			○
	下水道		㎥	970.5	941.0	1043.3	111%			○
		排水量合計	㎥	1217.5	1208.0	1371.3	114%	○		
	BOD排出量		g	2717.0	21360.0	6888.0	32%			○
④-2 水使用量	上水		㎥	1217.5	1208.0	1371.3	114%		○	
⑤化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質		kg	0.0	0.0	0.0	—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
⑥ エネルギー使用量	購入電力（新ｴﾈﾙｷﾞｰを除く）		MJ	953382.2	938892.8	857942.7	91%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	7500761.8	6940562.2	6739621.4	97%			○
		ガソリン	MJ	1157947.5	1142737.3	1126146.6	99%	○		
		灯油	MJ	35628.7	24408.4	25984.0	106%	○		
		プロパンガス	MJ	18681.3	7989.3	16632.0	208%	○		
		都市ガス	MJ	0.0	315.0	1080.0	343%			○
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
	その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○
⑦ 物質使用量	資源使用量		kg	738.5	1023.5	806.5	79%			○
	循環資源はありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	該当するものはありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥		t	1100.0	1060.0	1110.0	105%			○
	▶ うち再資源化		t	1100.0	1060.0	1110.0	105%			○

※　集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績

② 受託した産業廃棄物の処理量

	処理方法等		廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
産業廃棄物の処理量	収集運搬		燃え殻		68.9	56.6	27.8
			汚泥		2601.7	2249.0	2249.9
			廃油		4.7	0.8	0.5
			廃酸		0.6	0.0	0.0
			廃アルカリ		73.6	314.0	157.5
			廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類		3.7	5.0	9.8
			紙くず		0.0	0.0	0.0
			木くず		8.8	0.0	7.2
			繊維くず		0.0	0.0	0.0
			動・植物性残さ		301.2	235.0	235.9
			ゴムくず		0.0	0.0	0.0
			金属くず		4.9	19.5	2.4
			ガラスくず・陶磁器くず及びｺﾝｸﾘｰﾄくず		0.1	6.8	15.9
			鉱さい		0.0	0.0	0.0
			動物のふん尿		0.0	0.0	0.0
			がれき類		0.0	3.5	32.7
			ばいじん		36.3	0.0	0.0
			石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0
					0.0	0.0	0.0
	収集運搬量 合計				3104.5	2890.2	2739.7
	収集運搬（特別管理）		特管廃油		0.0	0.0	0.0
			特管廃酸		0.0	5.0	0.0
			特管廃アルカリ		1.5	0.6	0.0
			特管燃え殻		4.0	9.0	7.6
			特管汚泥		0.0	0.6	0.0
			特管鉱さい		0.0	0.0	0.0
			特管ばいじん		0.0	0.0	0.0
			特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0
					0.0	0.0	0.0
	収集運搬量 合計				5.5	15.2	7.6
	中間処理		有機性汚泥	脱水	1326.9	580.0	540.1
		うち再資源化	有機性汚泥	脱水	1326.9	580.0	540.1
			再資源化等量 小計		1326.9	580.0	540.1
	中間処理量 合計				1326.9	580.0	540.1
	中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
					0.0	0.0	0.0
		再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	192.4	97.3	78.7
					0.0	0.0	0.0
	中間処理後処分量 合計				192.4	97.3	78.7

	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
浄化槽清掃	浄化槽汚泥収集運搬（一般廃棄物）	浄化槽汚泥		8940.5	8420.8	8368.0

環境負荷実績　本社

本　社

1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R3年	R4年	R5年	前年度比
売上高	千円	8,430	6,636	5,312	80.0%
従業員	人	10	10	10	100%
床面積	㎡	118.44	118.44	118.44	100%

2. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷			単位	R3年	R4年	R5年	前年度比	重要性 目標項目	重要性 取組項目	重要性 監視項目
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		kg-CO_2	22093.3	19138.9	18350.1	96%	○		
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量		t	—	—	—	—			○
	特別管理産業廃棄物収集運搬量		t	—	—	—	—			○
	産業廃棄物中間処理量		t	—	—	—	—			○
	▶ うち再資源化等量		t	—	—	—	—			○
	中間処理後の産廃の処分量		t	—	—	—	—			○
	▶ うち再資源化等量		t	—	—	—	—	○		
	浄化槽汚泥（一廃）の収集運搬量		t	—	—	—	—			○
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	882.4	793.7	860.1	108%			○
		単純焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	12.5	21.8	8.0	37%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計		kg	894.9	815.5	868.1	106%	○		
④-1 総排水量	公共用水域		㎥	0.0	0.0	0.0	—			○
	下水道		㎥	52.5	42.0	43.3	103%			○
	排水量合計		㎥	52.5	42.0	43.3	103%	○		
	BOD排出量		g	—	—	—	—			○
④-2 水使用量	上水		㎥	52.5	42.0	43.3	103%		○	
⑤化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質		kg	0.0	0.0	0.0	—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
⑥ エネルギー使用量	購入電力（新ｴﾈﾙｷﾞｰを除く）		MJ	324586.6	290397.9	267022.1	92%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	0.0	0.0	0.0	—			○
		ガソリン	MJ	106337.9	85548.5	89266.6	104%	○		
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
		都市ガス	MJ	0.0	315.0	1080.0	343%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
	その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○
⑦ 物質使用量	資源使用量		kg	200.0	402.5	201.5	50%			○
	循環資源はありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	該当するものはありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥		t	—	—	—	—			○
	▶ うち再資源化		t	—	—	—	—			○

※　集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績　本社

＜産業廃棄物処理量について＞

本社は産業廃棄物収集運搬及び処分を行う部署ではない為

実績はありません

環境負荷実績　大牟田支店

大牟田支店

1．事業の規模

環境への負荷	単位	R3年	R4年	R5年	前年度比
売上高	千円	326,449	329,830	324,050	98.2%
従業員	人	31	31	30	97%
床面積	㎡	429.94	429.94	429.94	100%

2．環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷			単位	R3年	R4年	R5年	前年度比	重要性 目標項目	重要性 取組項目	重要性 監視項目
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		kg-CO_2	139042.3	136413.1	132605.6	97%	○		
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量		t	58.8	111.9	82.4	74%			○
	特別管理産業廃棄物収集運搬量		t	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物中間処理量		t	149.6	0.0	0.0	—			○
	▶ うち再資源化等量		t	149.6	0.0	0.0	—			○
	中間処理後の産廃の処分量		t	26.4	0.0	0.0	—			○
	▶ うち再資源化等量		t	26.4	0.0	0.0	—	○		
	浄化槽汚泥（一廃）の収集運搬量		t	8940.5	8420.8	8368.0	99%			○
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	982.6	1021.2	938.4	92%			○
		単純焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	4550.0	4550.0	5270.0	116%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計		kg	5532.6	5571.2	6208.4	111%	○		
④-1 総排水量	公共用水域		㎥	247.0	267.0	328.0	123%			○
	下水道		㎥	0.0	0.0	0.0	—			○
	排水量合計		㎥	247.0	267.0	328.0	123%	○		
	BOD排出量		g	2717.0	21360.0	6888.0	32%			○
④-2 水使用量	上水		㎥	247.0	267.0	328.0	123%		○	
⑤化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質		kg	0.0	0.0	0.0	—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
⑥ エネルギー使用量	購入電力（新ｴﾈﾙｷﾞｰを除く）		MJ	218167.0	234917.3	210244.0	89%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	1508866.8	1462517.9	1444909.7	99%			○
		ガソリン	MJ	377486.0	374251.6	352482.3	94%	○		
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
		プロパンガス	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
	その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○
⑦ 物質使用量	資源使用量		kg	172.5	170.0	195.0	115%			○
	循環資源はありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	該当するものはありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥		t	—	—	—	—			○
	▶ うち再資源化		t	—	—	—	—			○

※　集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績　大牟田支店

②　受託した産業廃棄物の処理量

	処理方法等		廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
産業廃棄物の処理量	収集運搬		燃え殻		0.0	0.0	0.0
			汚泥		58.0	111.6	82.4
			廃油		0.8	0.3	0.0
			廃酸		0.0	0.0	0.0
			廃アルカリ		0.0	0.0	0.0
			廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類		0.0	0.0	0.0
			紙くず		0.0	0.0	0.0
			木くず		0.0	0.0	0.0
			繊維くず		0.0	0.0	0.0
			動・植物性残さ		0.0	0.0	0.0
			ゴムくず		0.0	0.0	0.0
			金属くず		0.0	0.0	0.0
			ガラスくず・陶磁器くず及びｺﾝｸﾘｰﾄくず		0.0	0.0	0.0
			鉱さい		0.0	0.0	0.0
			動物のふん尿		0.0	0.0	0.0
			がれき類		0.0	0.0	0.0
			ばいじん		0.0	0.0	0.0
			石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0
	収集運搬量　合計				58.8	111.9	82.4
	収集運搬（特別管理）		特管廃油		0.0	0.0	0.0
			特管廃酸		0.0	0.0	0.0
			特管廃アルカリ		0.0	0.0	0.0
			特管燃え殻		0.0	0.0	0.0
			特管汚泥		0.0	0.0	0.0
			特管鉱さい		0.0	0.0	0.0
			特管ばいじん		0.0	0.0	0.0
			特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0
	収集運搬量　合計				0.0	0.0	0.0
	中間処理		有機性汚泥	脱水	149.6	0.0	0.0
		うち再資源化	有機性汚泥	脱水	149.6	0.0	0.0
			再資源化等量　小計		149.6	0.0	0.0
	中間処理量　合計				149.6	0.0	0.0
	中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
		再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	26.4	0.0	0.0
	中間処理後処分量　合計				26.4	0.0	0.0

	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
浄化槽清掃	浄化槽汚泥収集運搬（一般廃棄物）	浄化槽汚泥		8940.5	8420.8	8368.0

環境負荷実績　熊本支店

熊本支店

1．事業の規模

環境への負荷	単位	R3年	R4年	R5年	前年度比
売上高	千円	434,098	388,477	428,071	110.2%
従業員	人	17	17	19	112%
床面積	㎡	172.25	172.25	172.25	100%

2．環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷			単位	R3年	R4年	R5年	前年度比	重要性 目標項目	重要性 取組項目	重要性 監視項目
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		kg-CO_2	204612.9	179595.0	179896.4	100%	○		
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量		t	981.3	716.0	659.0	92%			○
	特別管理産業廃棄物収集運搬量		t	5.5	14.0	7.6	54%			○
	産業廃棄物中間処理量		t	858.3	580.0	385.0	66%			○
	▶ うち再資源化等量		t	858.3	580.0	385.0	66%			○
	中間処理後の産廃の処分量		t	119.7	97.3	44.6	46%			○
	▶ うち再資源化等量		t	119.7	97.3	44.6	46%	○		
	浄化槽汚泥（一廃）の収集運搬量		t	—	—	—	—			○
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	81.9	52.9	0.0	0%			○
		単純焼却	kg	858.1	373.7	432.5	116%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計		kg	940.0	426.6	432.5	101%	○		
④-1 総排水量	公共用水域		㎥	0.0	0.0	0.0	—			○
	下水道		㎥	457.0	505.0	527.0	104%			○
	排水量合計		㎥	457.0	505.0	527.0	104%	○		
	BOD排出量		g	—	—	—	—			○
④-2 水使用量	上水		㎥	457.0	505.0	527.0	104%		○	
⑤化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質		kg	—	—	—	—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
⑥ エネルギー使用量	購入電力（新ｴﾈﾙｷﾞｰを除く）		MJ	188981.8	193326.6	193857.4	100%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	2588886.2	2206231.1	2179936.9	99%			○
		ガソリン	MJ	246190.8	276168.2	302122.0	109%	○		
		灯油	MJ	9094.6	4110.4	2202.0	54%	○		
		プロパンガス	MJ	15434.1	5217.3	13206.6	253%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
	その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○
⑦ 物質使用量	資源使用量		kg	211.0	311.0	278.0	89%			○
	循環資源はありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	該当するものはありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥		t	650.0	630.0	660.0	105%			○
	▶ うち再資源化		t	650.0	630.0	660.0	105%			○

※　集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

②　受託した産業廃棄物の処理量

	処理方法等		廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
産業廃棄物の処理量	収集運搬		燃え殻		34.8	37.1	24.4
			汚泥		860.5	656.7	593.2
			廃油		0.8	0.0	0.0
			廃酸		0.0	0.0	0.0
			廃アルカリ		2.0	0.6	0.0
			廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類		0.0	0.3	1.2
			紙くず		0.0	0.0	0.0
			木くず		0.0	0.0	0.0
			繊維くず		0.0	0.0	0.0
			動・植物性残さ		83.2	21.2	40.3
			ゴムくず		0.0	0.0	0.0
			金属くず		0.0	0.0	0.0
			ガラスくず・陶磁器くず及びｺﾝｸﾘｰﾄくず		0.0	0.1	0.0
			鉱さい		0.0	0.0	0.0
			動物のふん尿		0.0	0.0	0.0
			がれき類		0.0	0.0	0.0
			ばいじん		0.0	0.0	0.0
			石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0
	収集運搬量　合計				981.3	716.0	659.0
	収集運搬（特別管理）		特管廃油		0.0	0.0	0.0
			特管廃酸		0.0	5.0	0.0
			特管廃アルカリ		1.5	0.0	0.0
			特管燃え殻		4.0	9.0	7.6
			特管汚泥		0.0	0.0	0.0
			特管鉱さい		0.0	0.0	0.0
			特管ばいじん		0.0	0.0	0.0
			特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0
	収集運搬量　合計				5.5	14.0	7.6
	中間処理		有機性汚泥	脱水	858.3	580.0	385.0
		うち再資源化	有機性汚泥	脱水	858.3	580.0	385.0
			再資源化等量　小計		858.3	580.0	385.0
	中間処理量　合計				858.3	580.0	385.0
	中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
		再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	119.7	97.3	44.6
	中間処理後処分量　合計				119.7	97.3	44.6

	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
浄化槽清掃	浄化槽汚泥収集運搬（一般廃棄物）	浄化槽汚泥		—	—	—

環境負荷実績　久留米支店

久留米支店

1．事業の規模

環境への負荷	単位	R3年	R4年	R5年	前年度比
売上高	千円	420,127	392,611	404,852	103%
従業員	人	17	17	20	118%
床面積	㎡	511.14	511.14	511.14	100%

2．環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷			単位	R3年	R4年	R5年	前年度比	重要性 目標項目	重要性 取組項目	重要性 監視項目
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		kg-CO_2	274708.5	263759.5	250061.9	95%	○		
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量		t	2064.5	2062.3	1998.3	97%			○
	特別管理産業廃棄物収集運搬量		t	0.0	1.2	0.0	0%			○
	産業廃棄物中間処理量		t	319.0	0.0	155.1	—			○
	▶ うち再資源化等量		t	319.0	0.0	155.1	—			○
	中間処理後の産廃の処分量		t	46.2	0.0	34.1	—			○
	▶ うち再資源化等量		t	46.2	0.0	34.1	—	○		
	浄化槽汚泥（一廃）の収集運搬量		t	—	—	—	—			○
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		単純焼却	kg	705.8	633.2	636.6	101%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計		kg	705.8	633.2	636.6	101%	○		
④-1 総排水量	公共用水域		㎥	0.0	0.0	0.0	—			○
	下水道		㎥	461.0	394.0	473.0	120%			○
	排水量合計		㎥	461.0	394.0	473.0	120%	○		
	BOD排出量		g	—	—	—	—			○
④-2 水使用量	上水		㎥	461.0	394.0	473.0	120%		○	
⑤化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質		kg	—	—	—	—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
⑥ エネルギー使用量	購入電力（新ｴﾈﾙｷﾞｰを除く）		MJ	221646.8	220251.0	186819.2	85%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	3403008.8	3271813.2	3114774.9	95%			○
		ガソリン	MJ	427932.8	406769.0	382275.7	94%	○		
		灯油	MJ	26534.1	20298.0	23782.0	117%	○		
		プロパンガス	MJ	3247.2	2772.0	3425.4	124%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
	その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○
⑦ 物質使用量	資源使用量		kg	155.0	140.0	132.0	94%			○
	循環資源はありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	該当するものはありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥		t	450.0	430.0	450.0	105%			○
	▶ うち再資源化		t	450.0	430.0	450.0	105%			○

※　集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績　久留米支店

②　受託した産業廃棄物の処理量

	処理方法等		廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
産業廃棄物の処理量	収集運搬		燃え殻		34.1	19.5	3.5
			汚泥		1683.2	1480.7	1574.4
			廃油		3.2	0.5	0.5
			廃酸		0.6	0.0	0.0
			廃アルカリ		71.6	313.4	157.5
			廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類		3.6	4.7	8.6
			紙くず		0.0	0.0	0.0
			木くず		8.8	0.0	7.2
			繊維くず		0.0	0.0	0.0
			動・植物性残さ		218.1	213.8	195.6
			ゴムくず		0.0	0.0	0.0
			金属くず		4.9	19.5	2.4
			ガラスくず・陶磁器くず及びｺﾝｸﾘｰﾄくず		0.1	6.7	15.9
			鉱さい		0.0	0.0	0.0
			動物のふん尿		0.0	0.0	0.0
			がれき類		0.0	3.5	32.7
			ばいじん		36.3	0.0	0.0
			石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0
	収集運搬量　合計				2064.5	2062.3	1998.3
	収集運搬（特別管理）		特管廃油		0.0	0.0	0.0
			特管廃酸		0.0	0.0	0.0
			特管廃アルカリ		0.0	0.6	0.0
			特管燃え殻		0.0	0.0	0.0
			特管汚泥		0.0	0.6	0.0
			特管鉱さい		0.0	0.0	0.0
			特管ばいじん		0.0	0.0	0.0
			特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0
	収集運搬量　合計				0.0	1.2	0.0
	中間処理		有機性汚泥	脱水	319.0	0.0	155.1
		うち再資源化	有機性汚泥	脱水	319.0	0.0	155.1
			再資源化等量　小計		319.0	0.0	155.1
	中間処理量　合計				319.0	0.0	155.1
	中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
		再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	46.2	0.0	34.1
	中間処理後処分量　合計				46.2	0.0	34.1

	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R3年 処理量(t)	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)
浄化槽清掃	浄化槽汚泥収集運搬（一般廃棄物）	浄化槽汚泥		—	—	—

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■　確認を実施した環境関連法規

法令	対象施設・業種	確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物収集運搬業	✔
	一般廃棄物の処理	✔
	産業廃棄物の処理	✔
	特別管理産業廃棄物の処理	✔
	産業廃棄物管理票	✔
	雑則	✔
	産業廃棄物処理業 （収集運搬、処分）	✔
	特別管理産業廃棄物処理業 （収集運搬）	✔
	産業廃棄物処理施設	✔
福岡県廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行細則（条例）	実績報告書の提出	✔
建設工事に係る資源の再資源化等に関する法律	建設業	✔
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律	作業車、営業車	✔
水質汚濁防止法	機械潤滑油の流出防止	✔
フロン排出抑制法	定格出力が 7.5kW 未満の業務用のエアコン等	✔
自動車リサイクル法	廃車時	✔
家電リサイクル法	家電の廃棄時	✔
小型家電リサイクル法	小型家電の廃棄時	✔
道路交通法	運搬車両、社用車	✔
浄化槽法 （大牟田市浄化槽法施行細則） （大牟田市浄化槽保守点検業者の登録に関する条例）	浄化槽清掃業、保守点検業	✔
毒物及び劇物取締法	衛生設備の詰まり補修等	✔
上記に関する遵守チェック実施日	R5 年 12 月 29 日	

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■　評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

評価コメント
リストに記載した環境関連法規等について、書類の保管状況、遵守事項の実施状況、禁止事項の遵守状況等をチェックしました。 行政指導は受けておりません。

■　環境関連法規等の内容が最新の状態であるかの確認

最新の状態であるかの確認実施日	情報更新・追加等の有無
H24 年 12 月 10 日	無し
H25 年 12 月 27 日	有り
H27 年 9 月 19 日	無し
H28 年 10 月 15 日	有り
H29 年 10 月 6 日	有り
H30 年 10 月 9 日	有り
R1 年 10 月 7 日	無し
R2 年 10 月 8 日	無し
R3 年 10 月 7 日	無し
R4 年 10 月 7 日	無し
R5 年 10 月 10 日	無し

代表者による全体評価と見直しの結果

■ 全 体 評 価

● 環境への取り組みは適切に実施されているか

今年度は、目標を達成できている項目が多く、日頃の取り組みの成果が良い結果として表れていると感じます。目標が達成できていない項目でもガス使用量の維持を除けば、極端に悪い結果はありませんでした。ガス使用量の増加については、主にシャワーの使用によるものだと説明を受けています。シャワーの使用については、衛生面を考慮すると使用を制限すべきではないと考えています。ガスの使用量は、年度によるばらつきが見られますが、一般的なガスの使用量としてはそんなに多くはありません。過去、数年間の平均値から目標を設定するという案も出ていますので、そうした対応も検討してみてください。電気使用量の削減では、前年度には目標を達成できていませんでしたが、今年度には目標を達成することができています。その要因の一つとして、大牟田支店の空調機の買い替えがあったと報告を受けました。毎年、取り組みの結果を、評価、分析することで、設備投資による節電効果も確認することができます。このように、実施した取り組みについて、評価と分析を行い、効果が確認されれば、さらに発展させていく。という形が出来ている事からも環境への取り組みが適切に実施されていると感じています。

● 環境経営システムが有効に機能しているか

環境経営システムは有効に機能しています。目標の設定から進捗状況の定期的な確認、その後の評価と見直しまで、仕組みとして適切に運用する事ができています。活動を続けていく中で、問題が発生する事もありました。しかし、そのような状況でも改善策を講じ、対応することができています。今後もPDCAサイクルを活用し、より良い活動にしていけるよう努力を続けていきましょう。

■ 見直すべき点

● 環　境　経　営　方　針

変更の必要性：無し

● 環境経営目標・環境経営計画

変更の必要性：有り

使用量の維持を目標として３ヵ年の環境経営目標及び環境経営計画が作成されていました。しかし、前回の審査後に「前向きな目標設定もできるのではないか。」と助言を受けたと報告がありましたので、環境経営目標及び環境経営計画の変更について検討をお願いします。

● その他の環境経営システムの要素

変更の必要性：無し

□環境負荷、取組の自己チェック
□環境関連法気等の取りまとめ
□実施体制
□教育訓練
□環境コミュニケーション
□実施及び運用
□緊急事態への準備と評価
□問題点の是正処置
□文書及び記録の作成整理

代表取締役　久留須　智子

共栄環境開発株式会社

令和５年度　環境経営レポート